# 【豊かな体験活動 推進校】

# 地域の自然や文化、人とふれ合う体験活動 阿東町立生雲小学校

#### 学校の概要

# ① 学校規模

学級数:6学級児童数:37人教職員数:10人

○ 活動の対象学年:全学年(37人)

## ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 阿東町の西部にあり、2007年調べで、人口は1411人。産業は米作農業を中心とした地域である。
- 他都市に職を求めて出て行く人も多く 過疎化と共に高齢化の一途をたどり、本 校の児童数も年々減少している。
- 生雲地区はかつて町内の中心地の一つ として栄えていたこともあり、地域の人 々の愛郷心は強く、愛校心も旺盛で、学 校への協力も極めて積極的である。

#### ③ 連絡先

○ 〒759-1342山口県阿武郡阿東町生雲中319

○ 電 話:083-954-0109

 $\bigcirc$  FAX: 083-954-0098

○ 電子メール:

ikumosho@c-able.ne.jp

#### ─ 体験活動の概要

#### ① 活動のねらい

○ 地域の自然や文化、人とふれ合う体験 活動を通して、心豊かでたくましく、実 践力のある児童の育成を図る。

# ② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 学校行事と各学年の計画による生活科 総合的な学習の時間の中で実施する。
- ア ボランティアなど社会奉仕に関わる体 験活動
  - 阿東老人ホームでのボランティア活動(全学年)

(勤労・生産的行事2時間)

- イ 自然に関わる体験活動
  - 老人ホーム在所の方々、保育園児と 芋の苗植え、芋の収穫活動(全学年) (総合的な学習の時間4時間、生活科4 時間)
- ウ 勤労生産に関わる体験活動
  - ・ 米作りにチャレンジ(5年) (総合的な学習の時間75時間)
- エ 文化や芸術に関わる体験活動
  - 萩焼作家の方と萩焼制作(全学年)(総合的な学習の時間2時間、生活科 2時間)
- オ 複合した体験活動
  - ・ 保護者の方々と社会見学(全学年)(総合的な学習の時間5時間、生活科 5時間)

## 1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

地域の自然や文化、人とふれ合う体験活動を通して、心豊かでたくましく、実践力のある児童の育成を図る。

(2) 全体の指導計画

学 年	体験活動の種類・内容	教育課程上の位置付けと時数	期間
全学年	「ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動」 ・ 阿東老人ホームでのボランティア活動		12月
全学年	「自然に関わる体験活動」 ・ 老人ホーム在所の方々、保育 園児と芋の苗植え、収穫活動	総合的な学習の時間 4 時間 生活科 4 時間	6月~ 10月
全学年	「文化や芸術に関わる体験活動」 ・ 萩焼作家の方と萩焼制作	総合的な学習の時間2時間 生活科2時間	6月
全学年	「その他複合した体験活動」 ・ 保護者の方々と社会見学	総合的な学習の時間 5 時間 生活科 5 時間	6月~ 10月
5年	「勤労生産に関わる体験活動」 ・ 米作りにチャレンジ	総合的な学習の時間75時間	5月~ 11月

# 2 活動の実際

- (1) 「ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動」
  - ① ねらい

ボランティア活動を通して、「自分の力を周りの人

々のために生かすこと」ができる喜びを知る。(総時数2時間)

- ② 活動の展開(事前・事後指導を含む)
  - ねらい達成のための手だて: 道徳の時間や学級活動の時間で、高齢者の方々への 思いやりの心情を高めておく。
  - 流れ(内容)
    - ・ボランティア活動開始(縦割り班活動) 窓ふき作業
    - ・在所されている方々との交流 歌、肩もみ、雑談
- ③ 事後指導

実施後、各学級で活動しての感想を話し合わせることで、これからも在所されている高齢者の方々と、交流していこうとする意欲を高めた。



#### (2) 「自然に関わる体験活動」

○ 老人ホーム在所の方々、保育園児と芋の苗植え、収穫活動(総時数8時間) 生雲地区にある老人ホーム・保育園・小学校の交流の一環として活動している。 児童にとっては保育園児に教える立場であり、老人ホームの方々から教えられる

立場ともなり、生雲の自然のやさしさにふれると 共に、地域の方々のやさしさにもふれるよい機会 となった。

- (3) 「文化や芸術に関わる体験活動」
  - 萩焼作家の方と萩焼制作(総時数2時間)

生雲地区に隣接する萩から、萩焼作家の方をお招きして萩焼制作に全校児童で取り組んだ。講師の方から萩焼の歴史を学び、自分たちの身近に誇れる芸術があることに驚く児童が多かった。

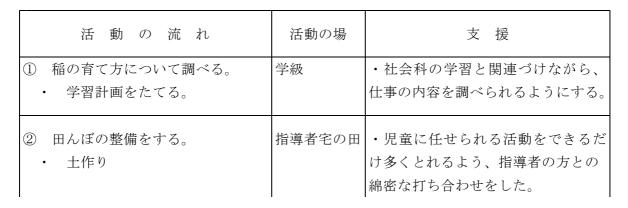
萩焼制作活動では、分かりやすく丁寧に制作手順を講師の方に教えて頂き、全 児童が意欲的に活動した。後日、窯焼きして頂いた自分の作品を見て、焼き色の素 晴らしさに多くの児童が感動していた。

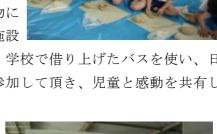
- (4) 「その他複合した体験活動」
  - 保護者の方々と社会見学(総時数18時間) 中山間部に住む児童であるため、海辺の生き物に 接する機会は少ない。また、消防訓練所などの施設

を時間をかけ体験させることも難しい。そこで、学校で借り上げたバスを使い、日頃、体験しにくい活動を計画した。保護者にも参加して頂き、児童と感動を共有して頂いた。

保護者とする潮干狩りを、児童は楽しみ意欲 的に取り組んでいた。また、消防訓練所での体 験は驚きの連続であり、親子共々、貴重な時間 を共有できた。

- (5) 「勤労生産に関わる体験活動」
  - ① ねらい:種まきから収穫までの体験活動を通 して、米作りの喜びと苦労を体感する。(総時数75時間)
  - ② 活動の展開(事前・事後指導を含む)





<u> </u>				
3	種まきをする。	指導者宅の田 学級	3	
4	苗を育てる。	学級		
(5)	田植えをする。	指導者宅の田	・水の管理等は、指導者の方にサポートをお願いした。	
⑥ 稲の成長を調べる。		指導者宅の田	・指導者の方と共に活動することで、 指導者の方の生き方を学ぶことがで きるようにする。	
7	稲刈りをする。	指導者宅の田		
8	脱穀をする。	指導者宅		
7	収穫した米の取り扱い、指導者の 可に感謝の気持ちを伝える方法につ いて話し合う。	学級	・収穫までの肥料代等の経費に目を 向け、収穫米の取り扱いを考えるこ とができるようにする。	

## 3 体験活動の実施体制

## (1) 豊かな体験推進委員会

教務部に「豊かな体験推進委員会」を設け、体験活動の意義、実践方法、教育課程上の位置付け、予算について検討していった。構成は、校長・教頭・教務主任・活動に関わる各主任・事務主事である。

#### (2) 配慮事項等

- ① 体験活動を実施するにあたり、活動の意義を、事前、事後、各参加学級で話し合う場を設けた。
- ② 活動が意義あるものになるよう、関係者との事前の打ち合せを入念におこなった。

#### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

参加学級においては、児童が活動を振り返る時間を設定している。また、教師からも改善 点等出し合い、次年度の活動に生かせるようにしている。

# 5 活動の成果と課題

児童の感想で、「お年寄りの方の知恵に気づいた。」「働く気持ちよさを知った。」「海の冷たさが心地よかった。」「消防士さんの苦労や素晴らしさが、よく理解できた。」などがあった。自然や人の心に直接ふれ、目には見えないものを感じ取れたようだ。

次年度も豊かな体験活動をより充実、発展させるために、今年度の反省点を踏まえ、各教 科と関連させながら、体験活動を教育課程上に位置付けていきたい。